

4 学生の受け入れ

(1) 学部等における学生の受け入れ

【到達目標】

本学は、リベラルアーツ教育を行う学芸学部1学部に4つの学科を置き、学則第3条に定める学科の目的に基づき、教育を展開している。

各学科の専門分野に関心を持ち、問題意識を備え、社会に貢献する意欲のある積極的な学生を全国に求めている。多様な背景、特色を持った優秀な学生を選抜するため、さまざまなタイプの入学試験を実施し、安定的に適正な数の入学者を受け入れることを目標とする。

1 学生募集方法、入学者選抜方法

1) 大学・学部等の学生募集の方法、入学者選抜方法、殊に複数の入学者選抜方法を採用している場合には、その各々の選抜方法の位置づけ等の適切性

【現状説明】

本学学部の学生募集は、学科ごとに行っている。さまざまなタイプの入学試験を実施し、幅広く学生を募集している。現在実施している入学試験の種類は以下のとおりである。

(1) 一般入学試験A方式(大学独自入学試験)

本学独自の出題による記述式試験で選考する。英文学科・国際関係学科は、英語・国語・選択科目(世界史・日本史・数学)の3科目、数学科・情報科学科は、英語・数学の2科目で試験を実施している。<図表4-1>

(2) 一般入学試験B方式(大学入試センター試験と本学個別学力試験)

学科が指定する大学入試センター試験の科目の得点と本学個別学力試験(1科目)の総合点で選考する。1998年度から英文学科・国際関係学科で、1999年度から情報数理科学科(2006年度より数学科・情報科学科)で実施している。<図表4-2>

(3) 一般入学試験C方式(大学入試センター試験のみ)

学科が指定する大学入試センター試験の科目の得点で選考する。2002年度から全学科で実施している。<図表4-3>

(4) 推薦入学試験(指定校制)

学科が指定する高等学校を当該年度に卒業見込みの生徒で推薦の条件(高等学校の成績等)を満たす者を対象とする。高等学校からの推薦を重視し、面接試験により選考する。1991年度から英文学科、2006年度から数学科、2007年度から情報科学科で実施している。

(5) 推薦入学試験(公募制)

事前に送付する問題を解いて、口頭試問(面接)に臨む問題解答型の入学試験である。一般の筆記試験と異なり、本で調べたり、人と相談したりしながら、じっくりと問題に取り組むことができる。数学科、情報科学科で実施している。

(6) AO入学試験

自分なりにテーマに取り組み、その成果を小論文にまとめ、発表するテーマ取り組み型の入学試験である。テーマに関して担当教員に質問することができる。2004年度から情報数理科学科(2006年度より情報科学科)で実施している。

(7) 特別入学試験(AO方式)

調査書、志望理由書及び読書力が問われる課題による書類選考の後、筆記試験及びグループ面接を行い、選考する。2009年度から国際関係学科で実施している。

(8) 特別入学試験(帰国生・在日外国人学校出身者・外国人留学生対象)

海外の高等学校の卒業者等(帰国生)、日本に居住する外国籍を有する女子で、日本における外国人向け教育機関における12年の課程を修了した者等(在日外国人学校出身者)、留学の目的で日本に入国する女子で、要件を満たす者(外国人留学生)を対象に行う入学試験である。資格審査の後、筆記試験及び面接で選考する。<図表4-4・図表4-5>

(9) 社会人入学試験

高等学校卒業後、5年を経過している者を対象とする。ただし、出願時に短期大学・4年制大学に在学中の者及びそれらを卒業(または退学)後3年未満の者を除く。英文学科で2002年度から、国際関係学科で2008年度から実施している。

(10) 編入学試験

学士入学者、大学2年次以上修了者(修了見込者)、短期大学及び高等専門学校卒業者(卒業見込者)等を対象とする。選考により、英文学科は原則として3年次、国際関係学科は原則として2年次、数学科・情報科学科は2年次または3年次への編入学が許可される。<図表4-6>

図表4-1 一般入学試験A方式 試験科目と配点、募集人員等(2010年度入学試験)

学科	募集人員	試験科目(出題範囲)	配点	時間
英文学科	120人	外国語: オラル・コミュニケーション、オラル・コミュニケーション、 英語、英語、リーディング、ライティング * 英文学科は、英語の書取試験を含む。	200点	100分
		国語: 国語総合、現代文	100点	80分
国際関係学科	170人	地理歴史または数学: 世界史B、日本史B、数学: 数学、数学、 数学A、数学B(数列、ベクトル) から1科目選択	100点	80分
数学科	25人	外国語: 英語、英語、リーディング、ライティング	100点	80分
		数学: 数学、数学、数学、数学A、数学B(数 列、ベクトル)、数学C(行列とその応用、式と曲線)	200点	120分

学科	募集人員	試験科目（出題範囲）	配点	時間
情報科学科	25人	外国語：英語、英語、リーディング、ライティング	120点	80分
		数学：数学、数学、数学、数学A、数学B（数列、ベクトル）、数学C（行列とその応用、式と曲線）	180点	100分

図表4-2 一般入学試験B方式 大学入試センター試験の利用科目と個別学力試験科目（2010年度入学試験）

学科	募集人員	試験科目	配点	時間
英文学科	30人	大学入試センター試験の利用科目 外国語：英語（リスニングを含む） 国語：国語 地理歴史：世界史B、日本史B、地理B 公民：現代社会、倫理、政治・経済 数学：数学、数学・数学A、数学 数学・数学B	150点 100点 100点	120分
		から1科目 選択	200点	
国際関係学科	25人	大学入試センター試験の利用科目 外国語：英語（リスニングを含む） 国語：国語 地理歴史：世界史B、日本史B、地理B 公民：現代社会、倫理、政治・経済 数学：数学・数学A、数学・数学B	100点 100点 100点	120分
		から1科目 選択	300点	
数学科	5人	大学入試センター試験の利用科目 外国語：英語 数学：数学・数学A 数学：数学・数学B 国語：国語（近代以降の文章） 地理歴史：世界史A、世界史B、日本史A 日本史B、地理A、地理B 公民：現代社会、倫理、政治・経済 理科：理科総合A、理科総合B、 物理、化学、生物、地学	200点 100点 100点 100点	120分
		から1科目 選択	300点	

学科	募集人員	試験科目	配点	時間
情報科学科	5人	大学入試センター試験の利用科目 外国語：英語 数学：数学 ・ 数学 A 数学：数学 ・ 数学 B 国語：国語（近代以降の文章） 地理歴史：世界史 A、世界史 B、日本史 A 日本史 B、地理 A、地理 B 公民：現代社会、倫理、政治・経済 理科：理科総合 A、理科総合 B、 物理、化学、生物、地学 から1科目 選択 個別学力試験 小論文(英語の理解力を必要とする) または 数学：数学、数学、数学、数学 A、数学 B (数 列、ベクトル)、数学 C (行列とその応用、式と曲線)	200点 100点 100点 100点 300点	120分

図表4-3 一般入学試験C方式 大学入試センター試験利用科目(2010年度入学試験)

学科	募集人員	試験科目	配点
英文学科 3教科型	20人	外国語：英語（リスニングを含む） 国語：国語 地理歴史：世界史 B、日本史 B、地理 B 公民：現代社会、倫理、政治・経済 数学：数学、数学、数学 A、数学 数学、数学 B 理科：物理、化学、生物、地学 から1科目 選択	250点 200点 100点
英文学科 4教科型	20人	外国語：英語（リスニングを含む） 国語：国語 地理歴史：世界史 B、日本史 B、地理 B 公民：現代社会、倫理、政治・経済 数学：数学、数学、数学 A、数学 数学、数学 B 理科：物理、化学、生物、地学 から1科目 選択	250点 200点 100点 100点

学科	募集人員	試験科目	配点
国際関係学科	30人	外国語：英語（リスニングを含む） 国語：国語 数学：数学 ・ 数学 A、数学 ・ 数学 B から1科目 選択 地理歴史：世界史 B、日本史 B、地理 B から1科目 公民：現代社会、倫理、政治・経済 選択	250点 200点 100点 100点
数学科	5人	外国語：英語 数学：数学 ・ 数学 A 数学：数学 ・ 数学 B 国語：国語（近代以降の文章） 地理歴史：世界史 A、世界史 B、日本史 A 日本史 B、地理 A、地理 B から1科目 公民：現代社会、倫理、政治・経済 選択 理科：理科総合 A、理科総合 B、 物理、化学、生物、地学	200点 125点 125点 100点 100点
情報科学科	10人	外国語：英語 数学：数学 ・ 数学 A 数学：数学 ・ 数学 B 国語：国語（近代以降の文章） 地理歴史：世界史 A、世界史 B、日本史 A 日本史 B、地理 A、地理 B から1科目 公民：現代社会、倫理、政治・経済 選択 理科：理科総合 A、理科総合 B、 物理、化学、生物、地学	200点 100点 100点 100点 100点

図表4 - 4 特別入学試験(帰国生 / 在日外国人学校出身者対象)学力試験科目および時間

学科	試験科目(時間)
英文学科	英語(80分)、小論文(日本語)(60分)、英会話・面接
国際関係学科	英語(60分)、現代世界に関する小論文(60分)、日本語による小論文(60分)、面接
数学科	英語(60分)、数学(120分)、面接
情報科学科	英語(60分)、数学(120分)、面接

図表4-5 特別入学試験(外国人留学生対象)学力試験科目および時間

学科	試験科目(時間)
英文学科	英語(80分)、日本語(小論文)(70分)、英会話・面接
国際関係学科	英語(60分)、現代世界に関する小論文(60分)、日本語(小論文)(70分)、面接
数学科	数学(90分)、作文(日本語または英語)(40分)、面接
情報科学科	数学(90分)、作文(日本語または英語)(40分)、面接

図表4-6 編入学試験 学力試験科目および時間(2010年度入学試験)

学科	試験科目(時間)
英文学科	第二外国語(フランス語、ドイツ語、スペイン語、ロシア語、中国語、朝鮮語、日本語から1科目選択《ただし母語を除く。》)(50分)、英語(80分)、小論文(40分)、英会話・面接
国際関係学科	第二外国語(フランス語、ドイツ語、スペイン語、ロシア語、中国語、朝鮮語から1科目選択《ただし母語を除く。》)(60分)、英語(60分)、小論文(60分)、面接
数学科	専門科目(180分)、英語(60分)、面接
情報科学科	専門科目(120分)、小論文(40分)、英語(60分)、面接

【点検・評価】

各選抜方法に特色をもたせ、筆記試験あるいは面接試験を通して、学力、意欲等受験生が本来持っている能力をじっくり判定することとしている。筆記試験の問題は、単なる暗記能力を見る問題ではなく、基本的な知識を問題に応じて応用・発展させたり、結論を理論的・体系的に記述したりする力を重視する問題となっている。

安定的に入学者を確保するため、一般入学試験A方式では、数学科・情報科学科で、2008年度から試験会場を東京(本学小平キャンパス)のほか、仙台、名古屋、福岡に拡大した。また、一般入学試験B方式でも、2009年度に情報科学科が地方会場試験を実施することになり、全学科とも東京(本学小平キャンパス)のほか、札幌、仙台、名古屋、大阪、福岡で試験を実施することとなった。情報科学科では、2009年度合格者9人のうち7人が新設の会場で受験しており、地方の優秀な受験者の獲得に一定の効果が見られた。

毎年、個性ある学生が入学し、セミナー等でリーダーシップを発揮したり、留学やフィールドワークに積極的に取り組んだり、勉学に励んでいる。各々の選抜方法の位置づけは適切である。

【改善方策】

入学選抜方法の改善については、毎年、各学科で検討している。

現在は、実施する入学試験が学科により異なるため、実施していない選抜方法実施

の可能性を継続して検討しているところである。

入学者選抜方法の多様化は、受験生の多面的な個性や能力に対応するためにも促進すべきであるが、反面、制度自体が複雑化し、受験生や進路指導担当教員に理解しにくくなることも考えられる。また、適正な定員確保に影響を及ぼす側面もある。的確な広報、精度の高い合格者判定がますます必要になると思われる。

2 入学者受け入れ方針等

1)入学者受け入れ方針と大学・学部の理念・目的・教育目標との関係

【現状説明】

本学は、リベラルアーツ教育を行う学芸学部1学部で構成され、人間としてより自由に生きるための学問、学生一人ひとりの個性と自主性の尊重を教育理念としている。主体的に自分の可能性を発見し、新しいものを創造していく力、自らを切り拓いていく力を培う教育を4つの学科で展開している。

この教育理念に基づき、各学科の専門分野に関心を持ち、問題意識を備え、社会に貢献する意欲のある積極的な学生を全国に求めている。

【点検・評価】

各学科の教育目標に基づき、学生の受け入れを行っている。2008年度に学則第3条に学科ごとの人材育成の目的を明記したことにより、各学科の教育目標がより明確になった。

【改善方策】

これまで、大学案内等により発信していた教育理念・受入方針を、大学入学者選抜実施要項（文部科学省高等教育局長通知）に則り、2011年度から一般入学試験要項にも記載し、より明確に受験者に伝えたいと考えている。

2)入学者受け入れ方針と入学者選抜方法、カリキュラムとの関係

【現状説明】

筆記試験においては、いずれの試験科目も論述問題を重視している。自ら問題を設定し、本質の理解に向けて様々な知識を動員しながら思考を繰り返す主体的な取り組みを入学後も期待するためである。

【点検・評価】

表現力、論理的思考の過程、議論の組み立て方は、卒業論文・卒業研究として集大成される。また、面接試験で発揮されるプレゼンテーション力、コミュニケーション力は、セミナーでのリーダーシップ、独創性と深く結びつくと考えられる。

【改善方策】

受け入れ方針に沿った複数の選抜方法により、多様な学生の受け入れができています。一方、多様な選抜方法は、得意分野を活かせる半面、選考にかかわらない科目の基礎

学力不足がやや心配されるところである。

特別入学試験（AO方式）、AO入学試験、推薦入学試験においては、入学前に課題を課しており、入学予定者は積極的に取り組んでいる。

3 入学者選抜の仕組み

1)入学者選抜試験実施体制の適切性

【現状説明】

入学試験当日は学長を本部長とする入試本部を設置し、入学試験全般に対応できるよう体制を整えている。一般入学試験実施時には、受験者の誘導のため、最寄駅から大学までの間に案内看板を出し、大学周辺が混雑する場合には警察にも協力を依頼する等、受験者の安全に配慮している。試験当日の大学への入構は、受験者と付添い者に限定し、構内を定期的に職員、警備員が巡回する等、徹底した警備体制をとっている。医務室には、校医、看護師が待機し、病人、けが人への応急措置体制を整えている。

身体障害等のある者の受験についても「受験特別措置申請」に基づき、受験者が安心して受験できるよう対応を慎重に検討している。

【点検・評価】

入学者選抜試験実施体制は適切である。

【改善方策】

現状の体制を堅持しつつ、多様化する入学者選抜試験の形態に配慮し、実施体制が常に適切に整備されるよう、実施体制の立案、適正な実施、終了時の点検・検証といったプロセスを確立することが必要と思われる。

2)入学者選抜基準の透明性

【現状説明】

入学者選抜については、試験ごとに入学試験要項を作成し、出願書類（所定用紙）とともに配付している。また、ガイドブック（大学案内）やホームページでも発表している。

入学試験結果についても、図表7のように、ガイドブック（大学案内）に掲載し、情報を提供している。

図表 4 - 7 2009 年度入試データ

英文学科

入試種類		選択科目	募集人員	志願者数		受験者数	合格者数	合格点		競争率	入学者数
								最高 / 満点	最低 / 満点		
一般入試	A方式	世界史	120		438	424	189	335/400	246/400	2.4	333
		日本史		297	288	109					
		数学		114	107	47					
		小計		849	819	345					
	B方式		30	514	215	46	467.8/500	393.8/500	4.7		
C方式(3教科型)		20	1,077	1,077	406	526/550	452/550	2.7			
C方式(4教科型)		20	430	430	142	627/650	541/650	3.0			
推薦入試		55	64	64	64						
社会人入試		若干名		9	9	5					
特別入試	帰国生、在日外国人学校出身者、外国人留学生対象		若干名	一次	15	15					
				二次	12	10	6				

国際関係学科

入試種類		選択科目	募集人員	志願者数		受験者数	合格者数	合格点		競争率	入学者数
								最高 / 満点	最低 / 満点		
一般入試	A方式	世界史	185		716	705	341	332/400	236/400	2.4	283
		日本史		428	415	136					
		数学		216	212	83					
		小計		1,360	1,332	560					
	B方式		25	394	192	49	773.7/900	640.6/900	3.9		
C方式		30	803	803	273	622/650	540/650	2.9			
社会人入試		若干名		1	1	1					
特別入試	帰国生、在日外国人学校出身者、外国人留学生対象		5	一次	20	20					
				二次	17	14	7				

数学科

入試種類		選択科目	募集人員	志願者数		受験者数	合格者数	合格点		競争率	入学者数
								最高 / 満点	最低 / 満点		
一般入試	A方式		25	130	125	62	278/300	164/300	2.0	67	
	B方式		5	58	27	10	773.0/800	577.0/800	2.7		
	C方式		5	165	165	82	594.25/650	472.30/650	2.0		
推薦入試		10	18	18	17						
特別入試	帰国生、在日外国人学校出身者、外国人留学生対象		若干名	一次	0	0					
				二次	0	0	0				

情報科学科

入試種類		選択科目	募集人員	志願者数		受験者数	合格者数	合格点		競争率	入学者数
								最高 / 満点	最低 / 満点		
一般入試	A方式	小論文	5	136	132	62	262/300	158/300	2.1	54	
		数学		29	15	6					
	B方式	小論文	32	11	4	623.2/800	532.0/800	2.6			
		小計	61	26	10						
C方式		10	171	171	76	548.4/600	448.0/600	2.3			
推薦入試		5	13	13	10						
AO入試		若干名	一次選考	11		10					
			二次選考	9	9	8					
特別入試	帰国生、在日外国人学校出身者、外国人留学生対象	若干名	一次	0	0	0					
			二次	0	0	0					

【点検・評価】

入学者選抜は、入学試験要項に則り、実施している。

一般入学試験では、本学全試験不合格者に対して、希望により入学試験の成績（点

数)を開示している。

【改善方策】

募集人員、志願者数、受験者数、合格者数、入学者数を公開し、さらに、合格最高点・最低点を明示することは、不合格者への入学試験成績の開示とともに、大学としての社会的責任である。この方針を堅持し、受験生等の信頼感を大切にしていきたいと考えている。

3)入学者選抜とその結果の公正性・妥当性を確保するシステムの導入状況

【現状説明】

試験問題の作成にあたっては、各教科別に関連学科から選出された出題責任者を中心に出題委員会が組織され、問題作成、解答作成、検証を組織的に適切に行っている。採点に関しては、出題委員会と別組織を編成する等チェック体制が十分機能するよう対策をとっている。

合否判定については、各学科で検討した後、全学で試験ごとに教授会（判定会議）を行い、結果を審議、承認している。

【点検・評価】

学則第21条に従い、入学に関する事項を教授会で審議している。全学教授会で審議することにより、入学者選抜とその結果の公正性・妥当性を確保している。

【改善方策】

現在の状況を維持、継続する。

4 入学者選抜方法の検証

1)各年の入試問題を検証する仕組みの導入状況

【現状説明】

問題作成段階において、二重三重にチェックを行うとともに、出題者以外が解答する等の検証を行っている。

試験当日も、試験開始と同時に問題を点検し、ミス防止及び早期発見に努めている。

【点検・評価】

入試ミス防止のためのガイドラインを作成し、出題、採点および試験終了後の試験問題の公表（入試データブックの作成）に当たって、検証を重ねている。

【改善方策】

例年7月初旬および12月中旬に企画広報課入試室から文部科学省の「大学入学者選抜における出題・合否判定ミス等の再発防止について」の文書を添付し、入試ミスが生じないように学内関係者に周知するなど、検証する仕組みは整っている。今後も入念な点検、検証が重要である。

5 科目等履修生・聴講生等

1) 科目等履修生・聴講生等の受け入れ方針・要件の適切性と明確性

【現状説明】

本学学則では、科目等履修生または聴講生を受け入れる条件として、正規学生の履修に妨げのない限り、選考の上、認めるとしている。また、資格は正規学生の入学資格を準用している。

【点検・評価】

受け入れ方針・要件は適切である。学則に定めていることに加えて、細則（募集時期、必要経費等）については、本学ホームページでも公開しているので、明確性といった点も問題はないと思われる。

【改善方策】

正規学生の履修を妨げる、という理由で受け入れを断ったことは近年ない。科目等履修生は、基本的には、教員免許取得、日本語教員養成課程受講を目的としている。できるかぎり科目等履修生の希望にそえるよう、今後も運用していく必要がある。

6 定員管理

1) 学生収容定員と在籍学生数、(編)入学定員と(編)入学者の比率の適切性

【現状説明】

	在籍学生数	収容定員(580×4=2,320)との比率
2009年度	2,826	1.22
2008年度	2,799	1.21
2007年度	2,715	1.17
2006年度	2,760	1.19
2005年度	2,736	1.18

(在籍学生数は、毎年5月1日現在 単位：人)

2008年度に入学者が多かったこともあり、学生収容定員と在籍学生数の比率は1.2倍を超えているが、過去5年を平均すると1.19倍であり、ほぼ適正な在籍学生数といえる。

【点検・評価】

2008年度の入学者が、入学定員580人に対し、737人(1.27倍)だったため、収容定員に対する在籍学生数の比率が1.2倍を超えているものの、定員をしっかりと確保しつつ、教育研究を行う上で支障は生じさせていないので、適正な学生数と言える。

【改善方策】

合格者判定の精度を高め、入学手続率などを十分に勘案し、適正な合格者数を出す

ことも重要であるが、定員を上回る学生を確保し、教育研究にも支障をきたしていない現状を維持することが最重要課題であると思われる。

2) 著しい欠員ないし定員超過が恒常的に生じている学部における対応策とその有効性

著しい欠員や定員超過がない状況であるため、該当しない。

7 編入学者、退学者

1) 退学者の状況と退学理由の把握状況

【現状説明】

退学者の状況は図表 4-8 の通り。退学理由は進路変更が最も多い。

図表 4 - 8 過去 5 年間（2004 年度～2008 年度）の退学者数

年度	退学者数（人）	全学生数に占める割合
2004	29	1.0%（2,798 人）
2005	33	1.2%（2,736 人）
2006	26	0.9%（2,760 人）
2007	21	0.8%（2,715 人）
2008	41	1.5%（2,799 人）

（ ）は在籍学生数

【点検・評価】

退学率は 1 % 前後で推移しており、退学率は低いと言える。2008 年度がやや多くなっているが、他大学への転学等進路変更に伴う退学が多い（2007 年度、2006 年度比）ことを把握している。

退学理由については、たとえば「一身上の都合」という場合は、可能な範囲で詳細な理由を確認することとしている。なお、退学については、教授会で退学理由等を確認した上で、許可している。

【改善方策】

退学率も低く、退学理由もほぼ把握している。ただし、進路変更が多いということは、学生にとってプラスの面ばかりではないので、入試広報において本学の特色、学べる分野等を入学前から正確に伝えることが必要であろう。

2) 編入学生および転科・転部学生の状況

【現状説明】

編入学生の状況は図表 4 - 9 の通り。

図表 4 - 9 (注 編入先学科の英文：英文学科、国際：国際関係学科、数学：数学科)

年度	志願者数(人)	編入学者数(人)	編入先学科(人)
2005	29	11	英文 6 , 国際 5
2006	29	10	英文 5 , 国際 5
2007	26	5	英文 2 , 国際 3
2008	22	12	英文 6 , 国際 5 , 数学 1
2009	26	11	英文 7 , 国際 3 , 数学 1

転科学生の状況は図表 4 - 10 の通り。(単一学部のため転部は該当なし)

図表 4 - 10

年度	転科希望者(人)	転科者数(人)	転科の内訳(人)
2005	7	5	英文 国際 1 , 国際 英文 3 , 情数 英文 1
2006	4	1	英文 国際 1
2007	5	2	情報 国際 1 , 数学 1
2008	4	3	英文 国際 3
2009	7	2	英文 国際 1 , 情報 国際 1

注 英文：英文学科、国際：国際関係学科、数学：数学科、情報：情報科学科
情数：情報数理科学科

【点検・評価】

編入学試験志願者数・転科希望者数、編入学者数・転科者数ともはほぼ同水準で推移している。

【改善方策】

編入学生数については、学則で定員を定めていないが、今後定員化の方向で検討することも視野に入れる必要がある。

2006 年度に情報数理科学科が数学科と情報科学科に分割されたことに伴い、転科については、これまでと違う傾向が出る可能性があったが、これまでのところ大きな変化は見られない。引き続き点検・評価が必要である。

(2) 大学院研究科における学生の受け入れ

【到達目標】

本大学院は、3つの研究科において、大学院学則第2条に定める研究科の目的に基づき、学部教育の基礎の上に、高度な専門性、研究能力を持った研究者を育成してい

る。

各研究科で研究を進めるのにふさわしい研究テーマと能力を持つ学生を広く受け入れ、社会に貢献することを目標とする。

1 学生募集方法、入学者選抜方法

1) 大学院研究科の学生募集方法、入学者選抜方法の適切性

【現状説明】

本学大学院の学生募集は、研究科、専攻、課程ごとに行っている。現在実施している入学試験の種類は以下のとおりである。

(1) 文学研究科英文学専攻修士課程

英語（英文和訳・和文英訳・英作文）、専門（共通問題・小論文）の筆記試験と面接試験で選考する。

(2) 文学研究科英文学専攻修士課程 英語教育研究コース（千駄ヶ谷キャンパス）

小学校・中学校・高等学校の現職教員として在職中の者（含非常勤）を対象とする。英語（英語エッセイ・ライティング）、専門（英語指導の実践力を問う問題）の筆記試験と面接試験で選考する。

(3) 理学研究科数学専攻修士課程

数学基礎（微分積分、線形代数は必修。他に代数入門、位相入門、微分方程式から1題選択）と数学専門（受験者の希望する専攻分野に関する口述試験）で選考する。

(4) 理学研究科数学専攻修士課程 社会人対象

大学を卒業した者で、入学時に卒業後2年以上経過した者等を対象とする。出願時に提出した小論文を基にした口頭試問（数学についての基礎的質問を含む）を行い、選考する。

(5) 理学研究科情報科学専攻修士課程

情報科学基礎（微分積分、線形代数、プログラミング、アルゴリズム、情報科学の5題から3題選択）と情報科学専門（受験者の希望する専攻分野に関する口述試験）で選考する。また、TOEFL/TOEICスコアシートの提出を必要とする。

(6) 理学研究科情報科学専攻修士課程 社会人対象

大学を卒業した者で、入学時に卒業後2年以上経過した者等を対象とする。出願時に提出した小論文を基にした口頭試問（情報科学についての基礎的質問を含む）を行い、選考する。また、TOEFL/TOEICスコアシートの提出を必要とする。

(7) 国際関係学研究科国際関係論専攻修士課程

出願時に卒業論文（あるいはこれに相当するもの）を提出する。外国語（英語・フランス語・ドイツ語・スペイン語・中国語・ロシア語・朝鮮語から1科目選択（母語を除く。））と提出論文に基づく面接で選考する。

(8) 文学研究科英文学専攻修士課程 推薦入学試験

本学英文学科を卒業見込みの者で、3年次までの成績のGPAが3.70以上の者が

対象である。書類選考により、各研究コース1人が被推薦者となり、面接試験を行う。

(9) 国際関係学研究科国際関係論専攻修士課程 推薦入学試験

本学国際関係学科を卒業見込みの者が対象である。出願時に研究計画を含む研究報告論文を提出し、それに基づく面接試験を行う。

(10) 文学研究科英文学専攻後期博士課程

出願時に修士論文またはこれに相当するもの及び研究計画概要を提出する。英文和訳・和文英訳の筆記試験と面接試験で選考する。

(11) 理学研究科数学専攻後期博士課程

出願時に修士論文またはこれに相当するものを提出し、修士論文及び専攻分野に関する口頭試問を行い、選考する。

(12) 国際関係学研究科国際関係論専攻後期博士課程

出願時に修士論文またはこれに相当するものを提出し、提出論文による面接試験を行い、選考する。

【点検・評価】

筆記試験及び面接試験により、各研究科で研究を進めるのにふさわしい研究テーマと能力を持ち、特に本大学院研究科を希望する理由があると認められた者を選抜している。文学研究科では、2009年度から外国語(フランス語・ドイツ語・スペイン語・中国語・ロシア語・朝鮮語から1科目選択)の試験をなくし、英語の試験に英作文を加え、試験時間も30分延長した。試験科目を変更し、英語に重点を置いたことは、安定的に入学者を確保するために有効であった。

理学研究科では、2007年度から修士課程入学試験の日程を7月に変更した。従来9月に実施していたが、他大学大学院との競合を考慮し、7月下旬とした。筆記試験と面接試験の組み合わせにより、適切に選考が行われている。

【改善方策】

必要に応じて、試験科目、試験日程等の見直しを行い、安定的に入学者を確保したいと考える。

2 学内推薦制度

- 1) 成績優秀者等に対する学内推薦制度を採用している大学院研究科における、そうした措置の適切性

【現状説明】

2008年度から文学研究科修士課程、国際関係学研究科修士課程で推薦入学試験を開始した。理学研究科では、1988年度から学科の審査により推薦を受けた者に入学試験の筆記試験を免除する推薦制度を実施している。

【点検・評価】

文学研究科では、書類選考により各研究コース1人を被推薦者としている。2009年

度、2010年度と、志願者が既定数を上回った研究コースがあり、成績優秀にもかかわらず推薦を得られない者が出てしまった。被推薦者に選考されなかった場合も、一般入学試験の受験を勧めている。その結果、推薦志願者は全員、進学している。

国際関係学研究科では、出願にあたって、12,000字程度の研究計画を含む研究報告論文をまとめ面接試験に臨んでいる。

学内推薦制度は、成績優秀者が研究を継続するための措置として適切に運用されている。

【改善方策】

学内推薦制度は、成績優秀者の研究継続を支援し、内部進学率を高める制度として有効である。女性研究者支援センターの活動を通して学部学生の進学意識を高める努力をしている。

3 門戸開放

1) 他大学・大学院の学生に対する「門戸開放」の状況

【現状説明】

入学試験の出願資格において、本学卒業者、他大学卒業者の区分はない。広く門戸を開放している。

入学試験における過去5年間の志願者、合格者、入学者は図表4-11のとおりである。

図表4-11 過去5年間の志願者・合格者・入学者数

文学研究科(修士課程)

	2005	2006	2007	2008	2009
志願者	17(4)	16(3)	14(6)	12(2)	29(3)
合格者	14(3)	12(1)	10(3)	10(0)	20(1)
入学者	13(3)	11(1)	8(2)	9(0)	17(1)

()内の数字は他大学出身者・内数

文学研究科(後期博士課程)

	2005	2006	2007	2008	2009
志願者	3(0)	6(4)	8(2)	1(1)	5(3)
合格者	2(0)	3(1)	6(1)	0(0)	4(2)
入学者	2(0)	3(1)	6(1)	0(0)	4(2)

()内の数字は他大学修士課程出身者・内数

国際関係学研究科(修士課程)

	2005	2006	2007	2008	2009
志願者	7(3)	6(1)	7(3)	2(2)	6(2)
合格者	4(1)	4(0)	5(1)	0(0)	5(1)
入学者	3(0)	3(0)	3(1)	0(0)	5(1)

()内の数字は他大学出身者・内数

国際関係学研究所(後期博士課程)

	2005	2006	2007	2008	2009
志願者	0(0)	2(1)	2(0)	3(3)	2(1)
合格者	0(0)	1(1)	2(0)	0(0)	2(1)
入学者	0(0)	1(1)	2(0)	0(0)	2(1)

()内の数字は他大学修士課程出身者・内数

理学研究科(修士課程)

	2005	2006	2007	2008	2009
志願者	12(2)	10(0)	11(0)	9(0)	12(1)
合格者	8(0)	8(0)	7(0)	9(0)	9(1)
入学者	7(0)	6(0)	4(0)	5(0)	7(1)

()内の数字は他大学出身者・内数

理学研究科(後期博士課程)

	2005	2006	2007	2008	2009
志願者	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(0)
合格者	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(0)
入学者	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(0)

()内の数字は他大学修士課程出身者・内数

また、文学研究科では、12大学の大学院間で「大学院英文学専攻課程協議会」(英専協)を結成し、理学研究科では、10大学の大学院間で「大学院数学連絡協議会」(数連協)を結成して単位互換を行っている。

【点検・評価】

他大学・大学院の学生に対し、広く門戸を開放しているが、過去5年間の入学者のうち、他大学出身者の割合は、国際関係学研究所後期博士課程で40.0%であるものの、全体では13.1%と必ずしも多くはない。理学研究科においては、10%に満たない状況である。

【改善方策】

多様な背景を持つ学生から構成される研究生生活は、互いに刺激しながら広い視野を得ることができる理想の研究環境を形成する。これまでどおり、他大学・大学院の学生に門戸を開放していく。

4 「飛び入学」

1) 「飛び入学」を実施している大学院研究科における、そうした制度の運用の適切性

【現状説明】

理学研究科修士課程及び国際関係学研究所後期博士課程において、入学時までに大学に

3年以上在学し、所定の単位を優れた成績をもって取得したと本大学院が認めた者(休学期間は在学期間を含めない)には、受験の機会が与えられる。

【点検・評価】

理学研究科において、1995年度、1996年度、2005年度に各1人、計3人が学部3年次から修士課程に「飛び入学」している。そのうち2人は、後期博士課程に進学し、さらに研究を継続した。2010年度にも、理学研究科情報科学専攻修士課程に1人「飛び入学」する予定である。

「飛び入学」志願者には、入学試験出願時に、成績証明書のほか、推薦書、志望理由書の提出を求める。制度の運用は適切である。

【改善方策】

特定の分野について特に優れた資質を有する学生が、研究能力を高め、高度な専門的業務にも早期に対応できる制度として、維持していく。

5 社会人の受け入れ

1) 大学院研究科における社会人学生の受け入れ状況

【現状説明】

理学研究科修士課程では、1998年度から社会人を対象とした入学試験を年2回実施している。

文学研究科修士課程では、「大学院入学資格を有し、高等学校・中学校の現職教員として在職中で、大学院修学休業制度あるいはそれに準ずる制度を利用して本研究科で学ぼうとする者」を出願資格の1つとしている。この資格で出願する場合は、6つの研究コース(イギリス文学研究、アメリカ文学研究、イギリス文化研究、アメリカ文化研究、英語学研究、コミュニケーション研究(コミュニケーション学・英語教育))または現職教員研修プログラムを選択することができる。また、2010年度には、千駄ヶ谷キャンパスに現職教員のための英語教育研究コースを開設する。

【点検・評価】

理学研究科修士課程の社会人入学者は必ずしも多くない(最近5年では、1人)が、試験科目を出願時に提出する小論文とそれを基にした口頭試問とし、大学院で学ぼうとする社会人に進学の機会を開いている。

文学研究科修士課程の英語教育研究コースは、小学校・中学校・高等学校で英語の授業を担当している教員が、仕事を継続しながら実践力と研究力を身につけることを可能にした新しい修士課程である。週1日ないし2日程度の夜間授業と、土曜日、夏期・冬期の長期休暇を利用して必要単位を修得できるようカリキュラムを編成する。

【改善方策】

千駄ヶ谷キャンパスに文学研究科修士課程英語教育研究コースを設置することを機に、現職教員をはじめとする社会人の受け入れを積極的に行う。

6 科目等履修生・聴講生等

1) 大学院研究科における科目等履修生・研究生・聴講生等の受け入れ方針・要件の適切性と明確性

【現状説明】

本学大学院学則では、科目等履修生または聴講生を受け入れる条件として、正規学生の教育に支障のない範囲において、選考の上、認めるとしている。また、資格は正規学生の入学資格を準用している。

【点検・評価】

受け入れ方針・要件は適切である。学則に定めていることに加えて、学部と同様、細則（募集時期、必要経費等）については、本学ホームページでも公開しているので、明確性といった点も問題はないと思われる。

【改善方策】

正規学生の教育に支障がある、という理由で受け入れを断ったことは近年ない。できるかぎり希望にそえるよう、今後も運用していく必要がある。

7 定員管理

1) 大学院研究科における収容定員に対する在籍学生数の比率および学生確保のための措置の適切性

【現状説明】

	在籍学生数	収容定員との比率 (2009・2008年度 103 2007年度以前 77)
2009年度	76	0.74
2008年度	61	0.59
2007年度	71	0.92
2006年度	83	1.08
2005年度	90	1.17

【点検・評価】

2005・2006年度にかけて定員を上回る学生数となり、実態にあわせて収容定員を変更した。その結果、近年は定員を下回る状況となっている。

【改善方策】

大学院全体で定員を見直したため、現状の学生数となっている。学生定員を学部にあわせて、研究科ごとに設定することを検討する必要がある。理学研究科情報科学専攻の設置、文学研究科英語教育研究コースの開設等、学生増の要因もあるので、当面、推移を見守りたい。

2) 著しい欠員ないし定員超過が恒常的に生じている大学院研究科における対応策とその有効性

【現状説明】

全体的な傾向としては、著しい欠員ないし定員超過はないが、理学研究科後期博士課程は、2005年度から2008年度まで入学者が無かった。

【点検・評価】

理学研究科では、後期博士課程の基礎となる修士課程の定員(10人)充足率も、40%~70%と過去5年充足していない。理学研究科全体での対策が必要である。しかし、2008年度の女性研究者支援センターを立ち上げ、主に理系の女性研究者を育成するプログラムを展開し、2009年度には後期博士課程に入学者があった。また、修士課程では、2010年度に情報科学専攻を設置し、当該年度の合格者は数学専攻9人、情報科学専攻5人の計14人となり、定員を上回る結果となった。

【改善方策】

理学研究科と女性研究者支援センターが協力して、奨学金制度の整備など進学環境を整えることが急務である。さらに、進路先の開拓、学位授与の促進など、研究科で検討すべき課題も多い。一方、修士課程の入学者が定員を大きく上回ったことは評価できる。情報科学専攻の充実を図りつつ、この傾向を維持することが重要である。